

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

- 東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

目標値

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。なお、正答率を算出する上で、短答・記述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として計算している。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

「書く能力」の定着に課題が残る

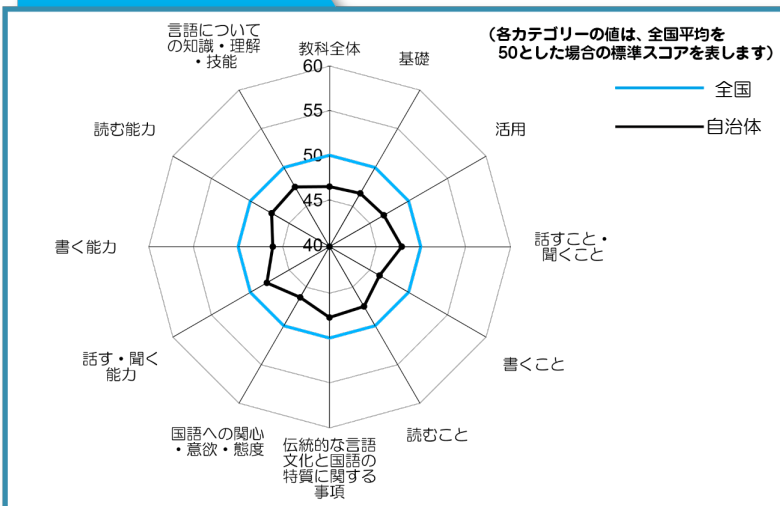
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		71.1	65.3											
基礎		72.7	66.6											
活用		64.0	59.3											
領域別	話すこと・聞くこと	81.7	77.7											
	書くこと	55.8	46.0											
	読むこと	70.8	66.4											
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.3	71.2											
観点別	国語への関心・意欲・態度	66.3	58.6											
	話す・聞く能力	81.7	77.7											
	書く能力	57.3	47.8											
	読む能力	68.6	63.7											
	言語についての知識・理解・技能	75.2	70.0											

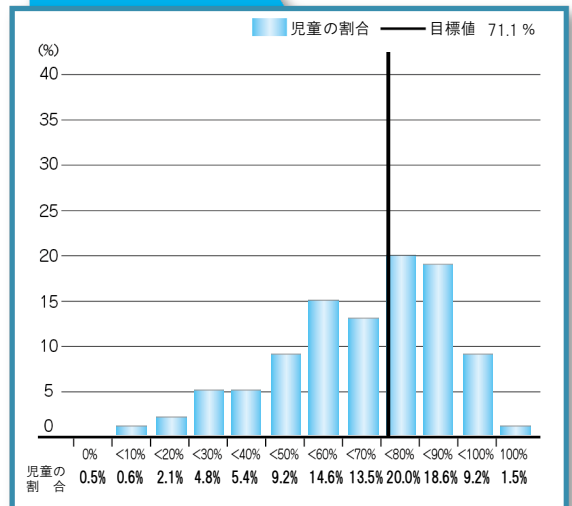
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が65.3%
- で、目標値を5.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「書く能
- 力」が47.8%で、目標値を9.5ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができる。

目標値 60.0% 正答率 43.6% 差 ▲16.4 ポイント

指導のポイント 本問は、文章を二つの段落に分けて、第二段落に、「電気」を大切に使うために、学校生活のどのような場面でのようなことに気を付けるのかを書く問題である。気を付けることの中心を明確にして書く必要がある。日頃から、書こうとする内容に対して根拠や理由を挙げたり、分かりやすく説明するための事例を挙げたりする練習を積ませることが大切である。事例を挙げる場合には、「例えば」などの表現を用いて、文章を書き出すことを指導するとよい。

ことばの学しゅう

大問3(3)①

<ねらい> 国語辞典の使い方を理解している。

目標値 60.0% 正答率 44.7% 差 ▲15.3 ポイント

指導のポイント 国語辞典で言葉を調べる際に、言葉の一字目が同じなら二字目、二字目も同じなら三字目で順番を決めるという五十音順の配列が理解できていないために、時間のかかる児童がいる。日頃から、例を挙げて調べさせたり、辞典引き競争や五十音並べ替えゲームをさせたりすることを通して、楽しく辞典の仕組みを理解させたい。また、教科書の新しい単元に入るたびに、教材文の言葉の意味を調べさせるなど、日常的に辞典を活用する習慣を身に付けさせるように指導することが大切である。

小3 算数

「数学的な考え方」の定着に課題が残る

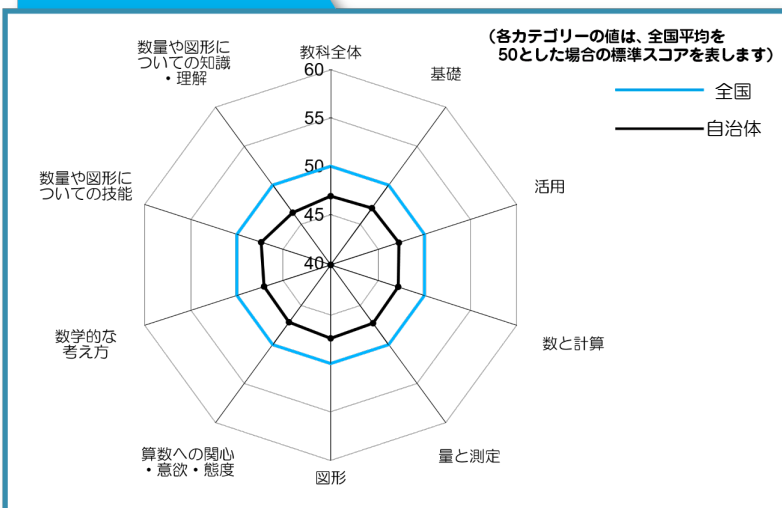
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		69.3	64.2											
基礎		75.4	71.5											
活用		53.5	45.2											
領域別	数と計算	68.8	63.6											
	量と測定	71.9	67.4											
	図形	66.7	60.4											
観点別	算数への関心・意欲・態度	63.6	58.0											
	数学的な考え方	60.2	52.8											
	数量や図形についての技能	68.9	64.0											
	数量や図形についての知識・理解	74.4	70.3											

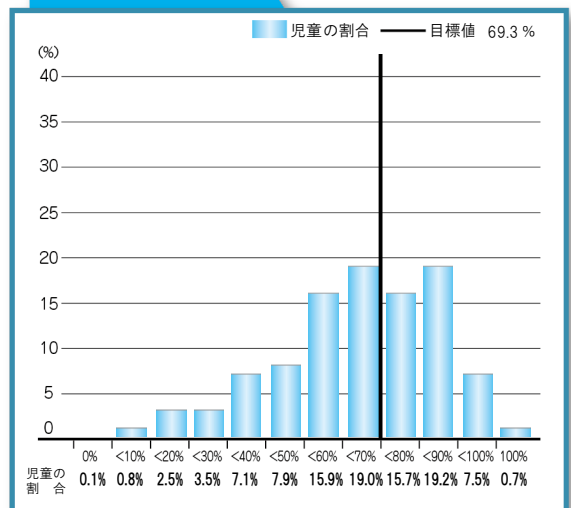
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が64.2%
- で、目標値を5.1ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数学的
- な考え方」が52.8%で、目標値を7.4ポイ
- ント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

わり算

大問19(2)

<ねらい> 余りの処理に気をつけて、列の数と一番後ろの列の人数を求めることができる。

目標値 30.0% 正答率 11.4% 差 ▲18.6 ポイント

指導のポイント 本問では、1組の人数が34人なので、問題にあるような図をかいていっても解決することはできる。しかし、もっと人数が多い場合などに、計算で解決できるよさが見られるように指導していきたい。除法の計算では、余りが出ることもある。このとき、商は何を表し、余りは何を表しているのかを、十分に理解させることが大切である。商と余りは単位が異なるので、混同しやすいところである。図を使って説明する場面を取り入れることが有効である。

かけ算

大問19(3)

<ねらい> 問題の場面を理解し、乗法と減法を適用して答えを求めることができる。

目標値 30.0% 正答率 13.9% 差 ▲16.1 ポイント

指導のポイント 32人が3回ずつ跳んだ回数を求めることは、乗法の基本的な問題である。本問のポイントは、「あと9回とべば」をどのように判断するかである。32×3−9なのか、32×3+9なのか、問題場面と式を関連させて考えさせることが大切である。日頃の授業においても、問題場面と式を関連させて考え、答えが問題場面において適切かを話し合う活動を取り入れることも有効である。

「書く能力」の定着に課題が残る

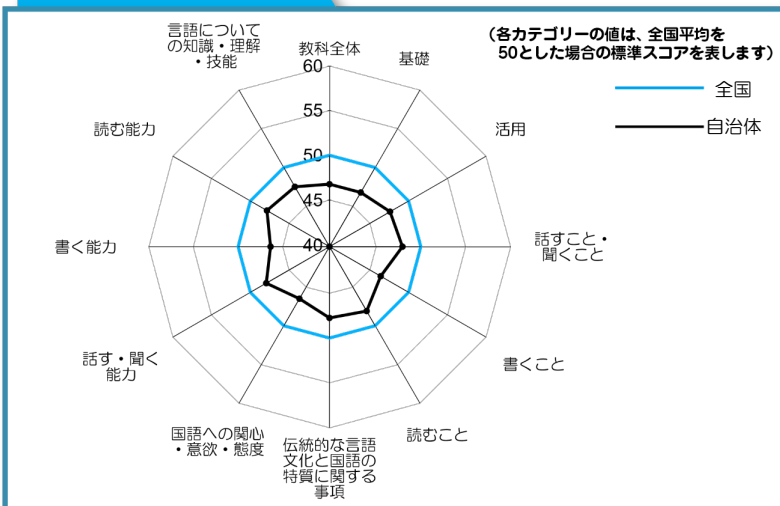
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		71.8	69.3	★										
基礎		74.1	70.4	★										
活用		61.0	64.4	★										
領域別	話すこと・聞くこと	78.3	77.5	★										
	書くこと	55.0	42.3	★										
	読むこと	75.7	78.4	★										
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.3	75.5	★										
観点別	国語への関心・意欲・態度	63.8	57.0	★										
	話す・聞く能力	78.3	77.5	★										
	書く能力	55.8	44.6	★										
	読む能力	72.5	74.4	★										
	言語についての知識・理解・技能	75.4	73.7	★										

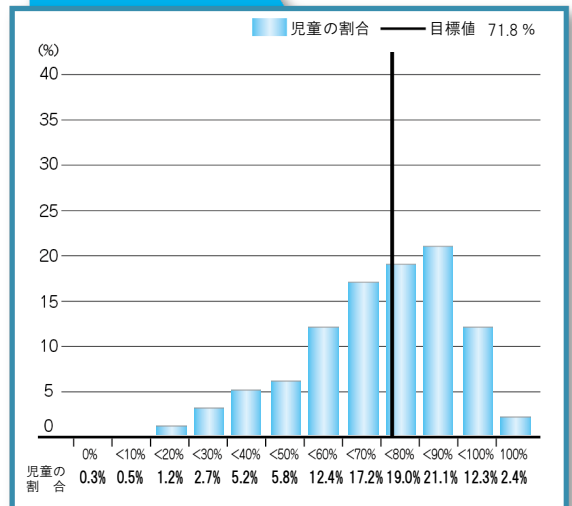
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が69.3%
- で、目標値を2.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「読む能力」が
- 74.4%で、目標値を1.9ポイント上回っ
- た。一方、「書く能力」が44.6%で、目標
- 値を11.2ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 55.0% 正答率 30.2% 差 ▲24.8 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ということを理解し、実際に段落分けができることが求められる。段落分けができなかった児童に対しては、まず教科書の教材文を示して、段落とはどのようなものを教える必要がある。その上で、意図的に段落のない短い文章を示し、話題の切り替わる場所で段落分けをさせると、段落意識をもたせることができる。

言葉の学習

大問3(4)

<ねらい> 漢字辞典の使い方を理解している。

目標値 60.0% 正答率 46.4% 差 ▲13.6 ポイント

指導のポイント 漢字辞典(漢和辞典)の適切な使い方を理解しているかを見る問題である。漢字辞典は、部首又は総画数から調べることができる。効果的に調べるためには、漢字の部首と画数について理解しておくことが必要である。特に画数は、漢字の筆順とも関係しているため、新出漢字や間違えやすい筆順の漢字についてはしっかり学習させることが大切である。なお、筆順については必ずしも正解が一つではないが、筆順の基本を押さえることにより、字形の整った文字を書くことができることを念頭に置いて指導したい。

小4 算数

「数学的な考え方」の定着に課題が残る

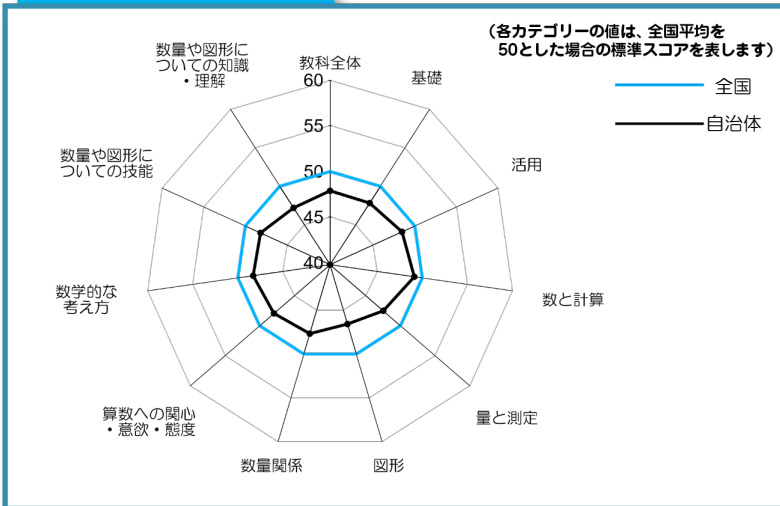
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		67.7	64.2	★										
基礎		71.9	68.7	★										
活用		53.8	49.3	★										
領域別	数と計算	69.7	67.8	★										
	量と測定	66.4	62.9	★										
	図形	55.0	44.6	★										
	数量関係	69.3	64.9	★										
観点別	算数への関心・意欲・態度	58.8	55.0	★										
	数学的な考え方	61.9	57.8	★										
	数量や図形についての技能	67.6	64.0	★										
	数量や図形についての知識・理解	69.1	65.2	★										

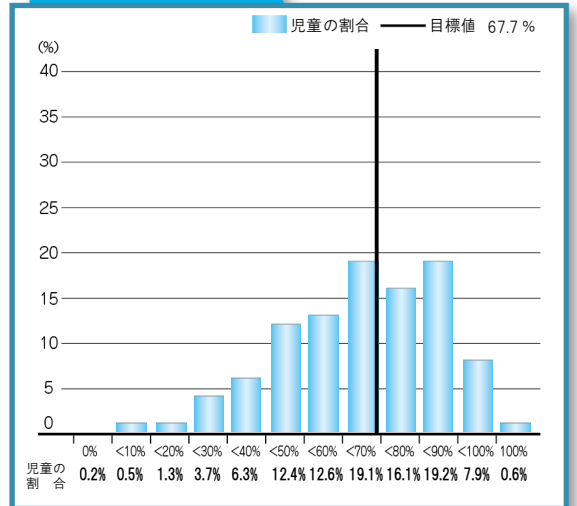
分析 コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が64.2%
- で、目標値を3.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数学的
- な考え方」が57.8%で、目標値を4.1ポイ
- ント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

折れ線グラフ

大問17(2)

<ねらい> 折れ線グラフを正しく読み取ることができる。

目標値 45.0% 正答率 33.8% 差 ▲11.2 ポイント

指導のポイント 折れ線グラフから読み取ることができることを答える問題である。折れ線グラフの指導では、かくことに力を入れがちであるが、できあがった折れ線グラフから何を読み取ることができるかを指導することも大切である。自由に読み取らせて、グループで話し合う活動を取り入れるなど、指導方法を工夫したい。

わり算

大問6答え

<ねらい> 文章問題を解くために立式した3けた÷1けた=2けた(余りあり)の式から、余りの処理をして正しい答えを求めることができる。

目標値 70.0% 正答率 59.7% 差 ▲10.3 ポイント

指導のポイント 105ページある本を、1日に6ページずつ読むときの、読み終わるのにかかる日数を答える問題である。問題場面を図に表して考えられるかどうか、問題を解くときのポイントになる。本問では余りに着目させて、余ったページの処理について考えさせることが大切であり、「余った3ページを読む日数も1日と数える」という点に気付かせるよう、注意が必要である。

「書く能力」の定着に課題が残る

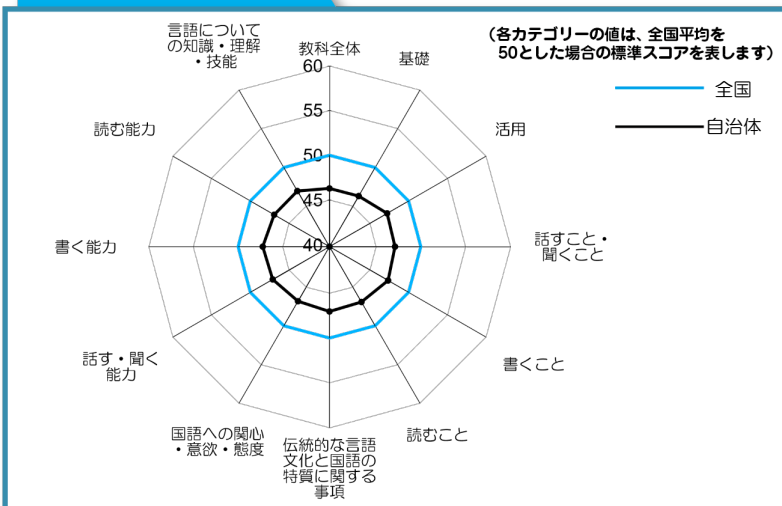
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		69.8	66.4											
基礎		73.5	70.2											
活用		53.0	48.8											
領域別	話すこと・聞くこと	75.0	76.7											
	書くこと	63.3	55.1											
	読むこと	72.9	70.9											
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	66.8											
観点別	国語への関心・意欲・態度	66.9	63.3											
	話す・聞く能力	75.0	76.7											
	書く能力	61.9	54.2											
	読む能力	70.3	68.4											
	言語についての知識・理解・技能	70.0	66.3											

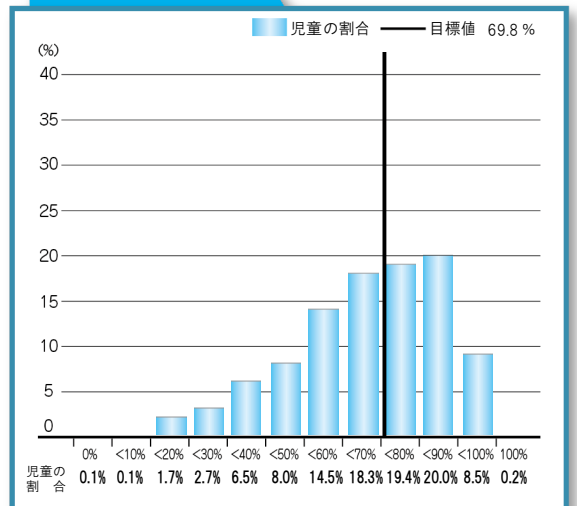
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が66.4%
- で、目標値を3.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「話す・聞く能力」が76.7%で、目標値を1.7ポイント上回った。一方、「書く能力」が54.2%で、目標値を7.7ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

言葉の学習

大問3(2)

<ねらい> 連用修飾語について理解している。

目標値 30.0% 正答率 11.9% 差 ▲18.1 ポイント

指導のポイント 修飾語と被修飾語の関係を理解しているかどうかを問う問題であり、「教室から」が修飾している言葉を見つける必要がある。「教室から」のような、連用修飾語になる副詞句は、被修飾語の直前に置くこともできるが、比較的自由的な位置に置くことができる。この文中での位置の自由さが原因で、意味が明確でない文になることもあるが、そうした日本語の特徴についても押さえるように指導していきたい。

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 70.0% 正答率 54.0% 差 ▲16.0 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題であり、第一段落に、2人の考えのうち、自分の考えはどちらに近いのか、第二段落に、なぜそのように考えるのか、自分の体験などを交えて書くことが求められている。作文にあたっては、記述に入る前に、まず文章の組み立てを考えさせたり、必要な材料を十分に集めさせたりすることが大切である。「段落」の定義を正しく理解させた上で、自分の考えを分かりやすく効果的に書いたり、意見と理由を区別して書いたりする力を養わせていきたい。

小5算数

「数量や図形についての知識・理解」の定着に課題が残る

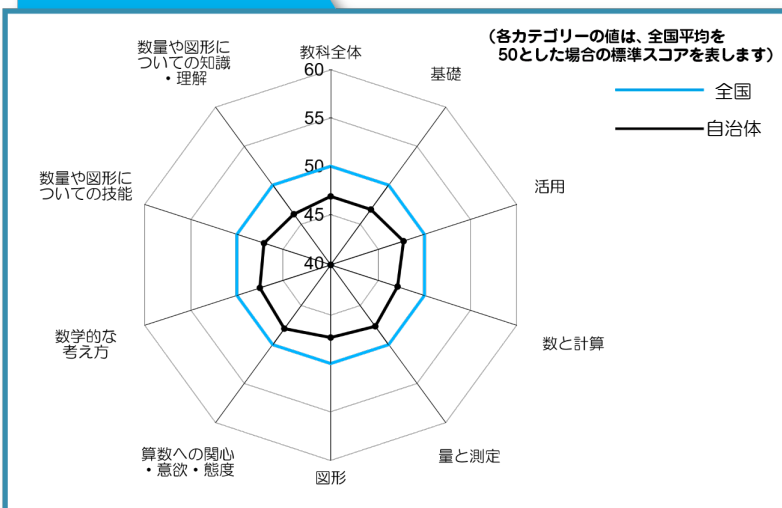
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		60.3	54.1	★										
基礎		64.3	58.5	★										
活用		45.0	37.3	★										
領域別	数と計算	63.4	57.7	★										
	量と測定	52.1	45.0	★										
	図形	58.0	51.2	★										
観点別	算数への関心・意欲・態度	45.8	38.7	★										
	数学的な考え方	47.7	40.9	★										
	数量や図形についての技能	65.8	60.3	★										
	数量や図形についての知識・理解	62.9	55.5	★										

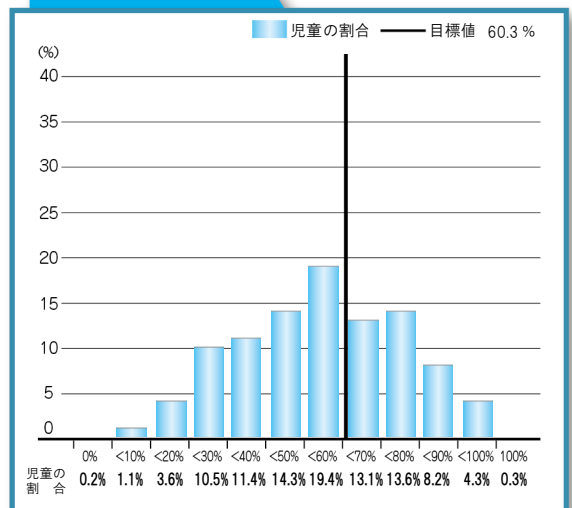
分析コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が54.1%
- で、目標値を6.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数量や
- 図形についての知識・理解」が55.5%で、
- 目標値を7.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

合同

大問20(2)

<ねらい> 合同な三角形を作図できる条件を説明することができる。

目標値 30.0% 正答率 13.4% 差 ▲16.6 ポイント

指導のポイント 三角形には3つの角と3つの辺がある。その要素のうち3つを用いると三角形は1つに決まり、合同な三角形をかくことができるが、どの要素でもよい訳ではない。合同条件については、覚えさせるだけではなく、どのような場合に三角形が1つに決まるのかを考えさせることが大切である。また、それぞれの合同条件を使って実際に作図させることで、そのよさが分かるように指導していきたい。

小数のかけ算・わり算

大問11(1)

<ねらい> 小数の除法(純小数÷純小数)の文章問題を表した図を選ぶことができる。

目標値 55.0% 正答率 42.5% 差 ▲12.5 ポイント

指導のポイント 問題場面における数値の間の関係を正しく捉え、演算を決定するためには、数直線を活用することが有効である。数が小数や分数になると、演算の決定が難しくなるので、丁寧に指導したい。本問の数直線は2つの数量の比例関係を前提にしているため、一方の量が口倍になれば、もう一方の量も口倍になるという仕組みを、十分に理解させることが大切である。

「書く能力」の定着に課題が残る

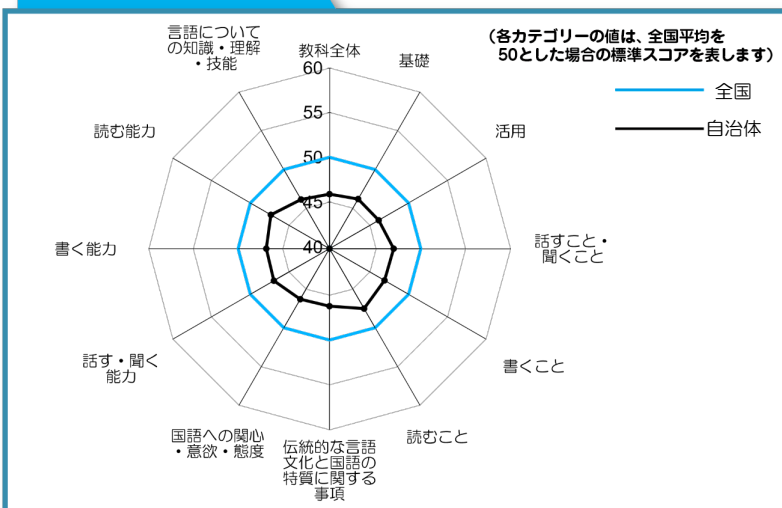
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		67.5	61.5	★										
基礎		71.1	65.2	★										
活用		54.2	48.1	★										
領域別	話すこと・聞くこと	73.3	67.8	★										
	書くこと	69.2	58.6	★										
	読むこと	63.6	58.1	★										
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.5	63.4	★										
観点別	国語への関心・意欲・態度	70.0	62.5	★										
	話す・聞く能力	73.3	67.8	★										
	書く能力	68.8	59.3	★										
	読む能力	63.4	58.3	★										
	言語についての知識・理解・技能	67.8	63.1	★										

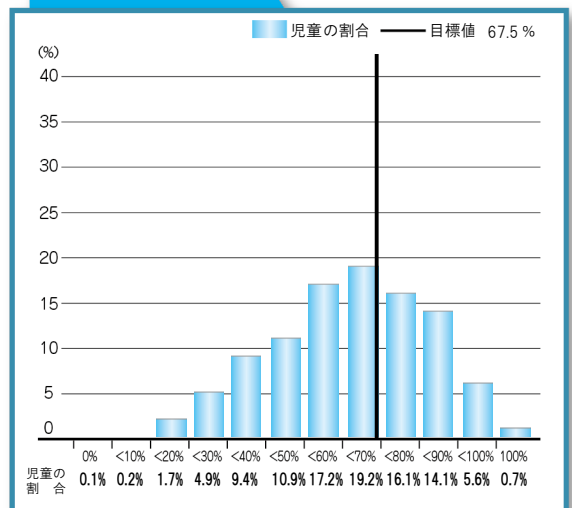
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が61.5%
- で、目標値を6.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「書く能
- 力」が59.3%で、目標値を9.5ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 75.0% 正答率 55.0% 差 ▲20.0 ポイント

指導のポイント 文章を書く問題では、「何を」「どのように」書くのかを理解した上で書くことが大切である。本問では、第一段落で、二つの意見のうち、どちらに賛成するか、及びその意見がよいと思う理由を書き、第二段落で、賛成しない意見への反論を書く。重要なのは、意見及びその理由と反論を二つの段落に分けて書くことである。日頃から、自分の考えや感想をもつ訓練と、200字程度の短い文章を書きまとめるなどの伝え合う力を高める指導を行いたい。

言葉の学習

大問3(3)②

<ねらい> 敬語(謙譲語)の使い方を理解している。

目標値 50.0% 正答率 35.5% 差 ▲14.5 ポイント

指導のポイント 正しい敬語の使い方が身に付いているかを見る問題であり、「いません」の謙譲語の「おりません」を選ぶ必要がある。敬語については、特に動作の主体によって、尊敬語を使うのか、謙譲語を使うのかを理解させたい。本問のような動詞の場合、普通の言い方に対して、尊敬の動詞による表現、謙譲の動詞による表現について整理させる。また、敬語を実際の生活の中で使うことができるようにするために、授業だけでなく学校生活全般にわたっての、丁寧な指導を継続していくことも必要となる。

小6 算数

「数量や図形についての知識・理解」の定着に課題が残る

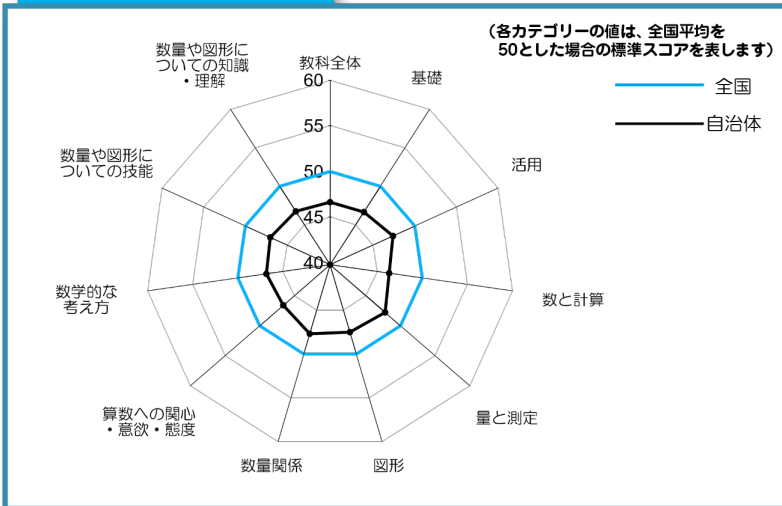
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		72.1	67.5											
基礎		74.2	69.3											
活用		61.7	58.1											
領域別	数と計算	75.9	71.0											
	量と測定	66.5	63.6											
	図形	73.8	71.3											
	数量関係	69.0	60.2											
観点別	算数への関心・意欲・態度	62.5	57.4											
	数学的な考え方	62.0	57.0											
	数量や図形についての技能	77.7	73.3											
	数量や図形についての知識・理解	70.2	64.7											

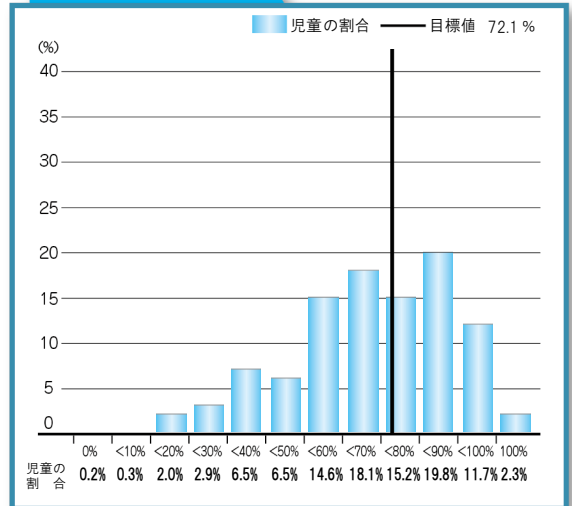
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が67.5%
- で、目標値を4.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数量や
- 図形についての知識・理解」が64.7%で、
- 目標値を5.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数のかけ算・わり算

大問6(1)

<ねらい> 分数の除法の文章問題にあった図を選ぶことができる。

目標値 70.0% 正答率 54.4% 差 ▲15.6 ポイント

指導のポイント 扱う数が分数になると、かけるのかわるのか、わる場合はどちらをどちらでわるのかが見えにくくなる。この場合は、数量の関係を簡潔に表す道具として数直線を用い、数直線上に問題場面の数量の関係を正しく表せば、どんな演算になるのかが分かりやすい。数直線をかけるようにすること、数直線から演算の決定ができるようにすることが大切である。かけ算やわり算の問題場面では、必ず数直線をかかせるように指導するとよい。

文字と式

大問13(2)

<ねらい> 2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。

目標値 70.0% 正答率 59.4% 差 ▲10.6 ポイント

指導のポイント 誤答の原因としては、2つの数量の関係を理解できていないことや、数量の関係を、文字を使った式に表すことに慣れていないことなどが考えられる。「残りの長さ＝はじめの長さ－使った長さ」で表されることを理解させ、そこへ文字を当てはめて、xの値を求めればよいことを確認しておきたい。